

平成29年度 学校自己評価表 (計画段階)

学校運営計画 (4月)		評価 (3月)	
学校運営方針	教職員が丸となり組織的に生徒に基本的な生活習慣と学習習慣を身に付けさせ、生徒一人一人の進路実現を図るとともに、自らの志に向かって意欲的に学び、自律心と思いやりの心をもつ生徒の育成を目指す。		
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
<p>1 学校運営方針に基づき職員の協働の結果、学校全体が落ち着き、地域や中学校からの信頼が高まり、生徒募集においても大きな成果が上がった。今後も生活や学習において基礎基本の習得を徹底し、生徒の社会自立に努める。</p> <p>2 基礎学力向上や授業改善に向けた取組を行うことにより、学習意欲や基礎学力の向上を図ることができた。今後もクラッシーの活用やアクティブラーニングやICTを使った授業に取り組み、学力向上に努める。</p> <p>3 総合的な学習の時間、特別活動をとおり、生徒に自尊感情の高揚が見られる。今後、学校行事およびボランティア活動、部活動等の成果を積極的に地域社会に発信することにより、開かれた学校づくりを推進し、保護者や地域から信頼される学校を目指す。</p> <p>4 生徒の自己実現を可能とする「生きる力」を育む取組は、人権教育の重要な柱である。教科指導、生徒指導、学級経営など、その活動の全体を通じて、人権が尊重される「学習活動づくり」「人間関係づくり」「環境づくり」に取り組む。</p> <p>5 総合学科高校として良き学校文化が生まれつつある。生徒、保護者、教職員、地域、同窓会が心を一つに、更なる飛躍を目指す。</p> <p>6 地元中学校との信頼関係は強固になりつつある。宮若東中学校校区の研修会や小竹高等技術専門校や大学、地元企業との協力関係も活用し、教育活動の充実に努める。</p>	<p>1 基礎学力の定着と自学自習力の習得</p> <p>2 規範意識の向上と健やかな心身の育成</p> <p>3 進路希望実現のためのキャリア教育の充実</p> <p>4 人権教育の推進および人権に関する意識・態度・行動力の育成</p> <p>5 地域から信頼される学校づくりの推進</p>	<p>授業規律の徹底を図り、授業改善に努め、わかる授業、興味・関心をもてる授業を展開することにより、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。</p> <p>教科・学年等が連携し、組織的に成績不振生徒に対する学習支援の徹底する。</p> <p>各教科において単元または題材ごとに明確な目標を設定し、評価方法や指導方法の改善を図る。</p> <p>きめ細かな生徒指導により、基本的な生活習慣の徹底を図るとともに、全職員の共通理解による生徒指導体制を確立し、規範意識の高揚を図る。</p> <p>部活動や生徒会活動・奉仕活動を充実させ、集団への帰属意識を育て、社会性やコミュニケーション能力の基礎を培い、自尊感情の育成を図る。</p> <p>心身を鍛え、何事にも粘り強く果敢に挑戦する生徒を育成する。</p> <p>生徒の能力と適性を最大限に生かせる進路の実現に努める。</p> <p>系統的なキャリア教育の充実を通して、生徒の進路意識を高めるとともに、生徒が主体的に進路実現を図れるよう支援する。</p> <p>各系列の学習内容の特色を生かした実習や課題研究の充実に努め、社会で通用する資格取得のための指導を積極的に進める。</p> <p>教育活動全体を通じて、人権教育を推進し、人権が尊重され、一人一人が大切にされていることを実感できる学校づくりを行う。</p> <p>特別支援教育に関する効果的な研修を行い、全職員の共通認識を図る。</p> <p>教育相談の環境を充実させ、明るい学校づくりに努めるとともに、生活アンケート等を実施し、いじめの早期発見に努め、いじめを撲滅する。</p> <p>いじめ問題対策委員会や教育相談事業を活性化させ、職員間の情報共有と共通理解を図り、不登校や中途退学の防止に努める。</p> <p>ホームページをはじめとする広報活動を積極的に進め、地域に信頼される学校づくりを推進する。</p> <p>学校行事・部活動・ボランティア活動をとおり、生徒、保護者、同窓会、さらには関係中学校、行政機関、企業等と連携を図り、学校の教育方向向上に努める。</p>	
	めざす学校像		めざす生徒像
	<p>1 生徒一人一人が確かな志を持ち、夢や希望の実現に向かって挑戦する学校</p> <p>2 「鍛えてほめる」ことにより基礎基本を身に付けさせ、鞍手竜徳生としての自信と誇りをもつ生徒を育成する学校</p> <p>3 豊かな心と健やかな体を持ち、生涯にわたって逞しく生きる人間を育成する学校</p>		<p>1 基礎基本を習得し、それを活用する生徒</p> <p>2 心身ともに健康で、思いやりや感謝の言動がとれる生徒</p> <p>3 自他の生命を大切にし、決して「いじめ」を許さない生徒</p> <p>4 高い規範意識をもち、規則を遵守する生徒</p> <p>5 最後まで粘り強く挑戦する生徒</p>
	評価項目	具体的目標	具体的方策
	学務部	教務課	1 基礎基本を身に付けさせるための積極的指導
2 円滑な分掌業務の遂行			1 定期的な部会議の実施で課間の連携を図ってミスのない業務の遂行に努める。 2 情報管理課と連携して教務支援システムの円滑な運用を目指す。また、タブレット端末によるクラッシーの活用開発を推進する。
庶務課		1 効率的な分掌業務の遂行	学校運営やPTA関係の業務精選を図り、早めの計画や立案を行い、効率的に業務を遂行する。
		2 PTA活動の活性化	1 PTA活動の充実に努め、活動への理解と協力を得る。 2 PTA参加行事(総会、挨拶運動、奉仕活動等)の保護者参加率10%以上の増加を目指す。 3 各委員会の日程を調整し、各委員長と担当教員との連絡を密にして活性化に努める。
		3 同窓会活動の活性化支援	同窓会活動に積極的に参加し、組織確立のために協力する。
研修図書課		1 授業研究の推進	1 研究授業の実施数を増やす。基本研修を除き10%以上の増加を目標とする。 2 研究授業の参観者と協議会の参加者を増やす。各々10名以上を目標とする。 3 教務課と協力し、指導と評価が一体化できる指導法について啓発する。
		2 職員研修の充実	時宜に応じた職員研修を企画する。
		3 中学生への広報活動	1 中学生の体験入学の内容を充実させる。 2 進路相談事業へ参加し、内容の充実を図る。
		4 図書館活動の充実	効果的な図書館利用を司書と協力して推進する。
情報管理課		1 広報活動の充実	1 部活動予定などの情報収集に努めHPなどを活用して広報に努める。 2 広報委員会と連携をし、地域・中学校に向けて発行する竜徳NEWS、PTA新聞などの質をさらに向上させる。
		2 校務用パソコンにおける業務の効率化	1 教務支援システムのマニュアルを作成し、全職員が効率よく活用できる体制を整える。 2 教務支援システムの運用を円滑に行い、教職員の事務負担を軽減する。
		3 授業におけるICT機器の使用率の向上	1 ICT機器の整備・管理を徹底し、全教職員が円滑にICT機器を活用できる環境を整備する。 2 研究授業において、タブレット・classiなど新たなICT機器の活用に取り組むことで授業力の向上を目指す。

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (3月)	次年度の主な課題	
学務部	教務課	1 基礎基本を身に付けさせるための積極的指導	1 「基礎学力定着テスト」を年間14回実施し、生徒に家庭学習の習慣の定着により、成績下位層の底上げを図る。 2 生徒部、学年と連携し、欠席・遅刻を昨年度より10%減少させる。 3 全教科において「観点別評価」を導入し、生徒が毎時間の授業を大切にできる指導体制づくりをする。 4 評価を含めてICT、AIの手法を積極的に活用した授業を推奨し、生徒が「分かる授業」を教職員全体に浸透させる。 5 成績不振に対して早めの指導を励行し未履修・未修得となることを防ぎ、全校生徒の全単位修得を目指す。		
		2 円滑な分掌業務の遂行	1 定期的な部会議の実施で課間の連携を図ってミスのない業務の遂行に努める。 2 情報管理課と連携して教務支援システムの円滑な運用を目指す。また、タブレット端末によるクラッシーの活用開発を推進する。		
	庶務課	1 効率的な分掌業務の遂行	学校運営やPTA関係の業務精選を図り、早めの計画や立案を行い、効率的に業務を遂行する。		
		2 PTA活動の活性化	1 PTA活動の充実に努め、活動への理解と協力を得る。 2 PTA参加行事(総会、挨拶運動、奉仕活動等)の保護者参加率10%以上の増加を目指す。 3 各委員会の日程を調整し、各委員長と担当教員との連絡を密にして活性化に努める。		
		3 同窓会活動の活性化支援	同窓会活動に積極的に参加し、組織確立のために協力する。		
	研修図書課	1 授業研究の推進	1 研究授業の実施数を増やす。基本研修を除き10%以上の増加を目標とする。 2 研究授業の参観者と協議会の参加者を増やす。各々10名以上を目標とする。 3 教務課と協力し、指導と評価が一体化できる指導法について啓発する。		
		2 職員研修の充実	時宜に応じた職員研修を企画する。		
		3 中学生への広報活動	1 中学生の体験入学の内容を充実させる。 2 進路相談事業へ参加し、内容の充実を図る。		
		4 図書館活動の充実	効果的な図書館利用を司書と協力して推進する。		
	情報管理課	1 広報活動の充実	1 部活動予定などの情報収集に努めHPなどを活用して広報に努める。 2 広報委員会と連携をし、地域・中学校に向けて発行する竜徳NEWS、PTA新聞などの質をさらに向上させる。		
		2 校務用パソコンにおける業務の効率化	1 教務支援システムのマニュアルを作成し、全職員が効率よく活用できる体制を整える。 2 教務支援システムの運用を円滑に行い、教職員の事務負担を軽減する。		
		3 授業におけるICT機器の使用率の向上	1 ICT機器の整備・管理を徹底し、全教職員が円滑にICT機器を活用できる環境を整備する。 2 研究授業において、タブレット・classiなど新たなICT機器の活用に取り組むことで授業力の向上を目指す。		

生徒部	生徒指導課	1 人権教育、いじめ防止の観点から、授業規律及び基本的な生活習慣の確立	1 授業規律の徹底を図るため、授業参加態度が著しく悪いと判断された生徒には生徒指導課が中心となり指導を行う。 2 学校生活を中心とした基本的な生活習慣を身に付けさせるため、昨年同様「遅刻欠席者指導」を継続し指導を徹底する。			
		2 交通安全指導の強化による規範意識の向上	1 自転車・バイク通学者の安全対策として、冬の制服着用時に学校指定のウィンドブレーカーの着用を義務付ける。 2 交通ルール的重要性や集団の一員としての自覚、生徒一人一人の規範意識を高めると共に、交通安全教室などを継続実施する。			
		3 部活動の活性化及び地域貢献活動の充実	1 部活動加入率60%を目指すと共に、部活動集会等を実施する中で部活生としての自覚と意識を高める。 2 竜徳祭を地域貢献活動の一つと位置付け、農産物販売などの校内実施を目指すと共に充実を図る。			
保健環境課	保健環境課	1 健康管理及び安全管理の推進	1 保健委員会を活用した、定期健康診断の実施及び事後措置による生徒の健康管理を推進する。 2 救急救命の職員研修の実施による安全意識の向上を図る。 3 保健室利用に関して教務支援システムの活用と情報提供を行う。 4 性教育事業の推進を図る。			
		2 環境美化意識の推進	1 美化委員会を活用し、日々の清掃活動を通しての美化意識の向上を喚起する。 2 掃除用具の点検整備を実施する。 3 ゴミの分別を周知させ、ゴミの減量化に努める。			
		3 支援教育の推進	1 スクールカウンセラーや訪問相談員・修学支援教員との情報交換を充実させる。 2 拡大学年会議等を通して、生徒個々の状況に関する内容の共通理解を図る。			
進路部	進路指導課	1 3年次（13期）生の進路実現	1 学年・クラス担任との連携を密にし、生徒の進路に関する情報を共有する。 2 生徒の実態や社会情勢に応じて、適時に配慮し情報を発信する。 3 面接指導・企業訪問を全職員・学校挙げて計画し実施する。 4 13期生の進路実現100%を目指す。			
		2 各学年の進路指導の充実	1 1年次生の全員課外を継続し、課外欠席者等の指導を学年中心に協力して行う。 2 2・3年次生の課外は、資格取得課外も含め年間を通したプランを提示する。3年次生は夏季休業中の課外から就職と進学に分けて実施する。 3 各学年の進路行事の定着を図る。			
		3 進路指導関係行事の充実	1 キャリア学習課と連携し進路ガイダンスの充実を目指す。 2 校内外模試試験を、各学年の実情に沿った効果的な時期に実施する。 3 外部講師や卒業生・3年次生の体験談を行うことにより、1・2年次生の意識の向上を図る。 4 外部団体との連携を継続して行う。面接指導、講演会等を含め新たな展開を模索する。			
	キャリア学習課	1 「産業社会と人間」・「総合的な学習の時間」の円滑な実施と運営	1 学習内容を明確にし、会議等を適宜実施することで教員間での共通理解を図る。 2 「産業社会と人間」において、これから行っていく3年間のキャリア教育の基本的な学習内容を示し、生徒が進路選択に向けて様々な情報を得ることができるようになる。 3 2・3年次の「総合的な学習の時間」の充実を図るために、必要に応じて該当の学年団との打合せを実施する。			
		2 科目選択に向けたガイダンス機能の充実	1 教務課と連携し、カリキュラム作成のための準備と科目群の作成、時間割の見直しを行う。 2 科目選択を充実させるための、カリキュラムガイダンスの学習内容の充実を図り、ミスの無い科目選択を実施する。 3 各学年の職員に科目選択に関する事前ガイダンスを実施し、科目選択がスムーズに実施できるようにする。			
		3 総合学科発表会の充実と、地域への情報発信の充実	1 「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」の学習内容を踏まえ、各系列の特色を生かした総合学科発表会を実施する。 2 HPなどを活用し、学校行事や学習内容の発信を充実させる。			
人権・同和教育部	人権・同和教育部	1 教職員研修の充実	1 教職員全員が、校外の研修会(学習会)に少なくとも2回は参加する体制を作る。 2 校内研修について、研修図書課との連携を図り外部講師を招聘する。(2回) 3 拡大学年会議で生徒情報の交換を徹底する。(複数回)			
		2 人権・同和教育授業、ホームルーム活動の充実	1 ホームルーム活動の学習内容の充実を図る。年4回、各学年で学習指導案を作成する。 2 ホームルーム活動の事前学習会および事後の反省会の充実を図る。 3 同和教育副読本(かがやき)、人権教育学習教材資料(あおぞら)、障がい認識を深めるためのDVD教材(わかったア2)の活用を進める。			
		3 自主活動支援及び修学支援の推進	1 人権研究会(部落研・朝文研)の活動を支援する。 2 学力支援の取組など教務、学年との連携や、SC・SSW・訪問相談員との連携を図り転退学者数を減らす。 3 入学時より継続的な相談事業を実施する。(合格者説明会、物品販売日、入学式等々)			
第1年次	第1年次	1 基本的な生活習慣の確立	1 規則正しい生活を促し、家庭との連携を密にして遅刻・欠席を「しない、させない」指導を目指す。 2 生活にメリハリをつけさせ、気持ちの切り替えができる生徒の育成を目指す。			
		2 職員間の統一した指導体制の確立	1 指導方針を明確にし、指導の柱をしっかりと共有した指導を行う。 2 高校生活における基礎・基本の徹底を目指した指導体制を確立する。 3 やるべきことを確実にやり遂げる力を育むため、粘り強い指導を学年全体で実施する。			
		3 社会に貢献できる人材の育成	1 挨拶・時間厳守、ルールを守るといった規範意識の高揚を図る。 2 志を高く持ち、何事にも意欲的に取り組む生徒を育成する。 3 互いに尊重し、思いやりと優しさをもった生徒を育み、誰とでもコミュニケーションを図ることができる力を身に付けさせる。			
第2年次	第2年次	1 集団としての行動力	1 遅刻・欠席・授業遅刻等がゼロであることが当たり前である集団をつくるために、粘り強く指導を行う。 2 部活や委員会、生徒会役員など様々な活動に積極的に参加・活躍できる機会をつくり、責任感を育てる。 3 思いやりのある生徒を育てるため、すべての生徒が頭を上げて授業や集会で人の話を素直に聞けるよう指導する。 4 修学旅行に全員で参加し、グループ活動や集団行動が様々な場面で適切に行動ができる指導をする。			
		2 学習習慣及び基礎学力の定着	1 新しくなった評価基準を理解させ、授業を真剣に受ける態度や考査に対する対応を繰り返し指導する。 2 昨年度に培った基礎学力を保つため、今年度の基礎学力定着テストも引き続き真剣に取り組ませる。			
		3 進路実現に向けての準備	1 インターンシップの準備から学習のまとめまで積極的に取り組み、勤労観や職業観を育てる。 2 進路実現の準備として系列ごとの学習に力を入れさせ、資格取得や技術の習得を目指す指導を行う。 3 日頃からのHR・集会等で進路を実現する意識の向上を図り、進路模試に対して真剣に取り組む態度を指導する。			
第3年次	第3年次	1 最上級生としての自覚をもち、責任ある言動がとれる生徒の育成	1 自分勝手な言動をなくし、日々の学校生活を大切にする母校愛の心を育む。 2 何事にも積極的に取り組み、自ら進んで行動できる力を育む。1学期無欠席率60%以上をめざす。 3 集団の中の一員として、所属するクラス、学年、学校への貢献しようとする心や感謝の気持ちを大切にさせる。			
		2 思いやりをもち、生徒や教師と尊重し合う人間関係の構築	1 日頃の生徒の言動観察より変化を見取り、学年全体で情報共有を図る。 2 身近な大人として模範となる姿で教育活動に取り組み、生徒へ思いやりの心をもって接する。 3 友人を思いやり、尊重し、協力する姿勢を身に付けさせる。			
		3 規範意識を高め、社会に貢献できる力を身に付けた生徒の育成	1 挨拶や時間厳守、ルールを守ることで、規範意識を高める。 2 素直、謙虚、感謝の気持ちを育み、社会で必要とされる人材育成をめざす。 3 13期生の進路実現100%をめざす。			